

■米国：ビンガマン議員、ドイツ政府の判断は「間違い」

報道によれば、2011年6月6日にドイツ政府が2022年までの原子力発電所全廃を閣議決定したことを受け、米国上院エネルギー天然資源委員会委員長のビンガマン氏は同日、ドイツ政府の判断は「間違いである」と報道インタビューに答えた。同氏は、「温室効果ガスをほとんど排出せずに世界の発電量の多くを占めている原子力発電を全廃することは、温室効果ガス削減の努力を後退させることである」とCO2問題に言及し、さらに「安全性に問題があるプラントを停止するのは妥当だが、すべての原子炉を廃止するのは行き過ぎである」と、ドイツ政府の判断に疑問を呈した。